



元陸軍兵器工場の寮で始めた 終戦後の養育院附属病院

櫻園通信 49. 平成 30 年 8 月

東京都健康長寿医療センター

養育院・渋沢記念コーナー

連絡先: 老年学情報センター

文・編集 宮本孝一 老年学情報センター

資料提供 玉越慶弘 養育院・渋沢記念コーナー維持ボランティア

1945 年 (昭和 20) 終戦
1946 年 (昭和 21) 元陸軍造兵廠大山宿舎に医務課 (養育院の病院部門) を開設
1947 年 (昭和 22) 医務課を**養育院附属病院**に改称

※1958 年 (昭和 33) 元陸軍造兵廠大山宿舎を国に返還

陸軍造兵廠大山宿舎 (北区戦後 70 年誌 記憶が紡ぐ平和への願い 北区役所総務部平成 28 年発行より)



1958 年 (昭和 33) 本院敷地に養育院附属病院開設



1972 年 (昭和 47) 養育院附属病院 改築



1986 年 (昭和 61) 東京都老人医療センターに改称

現在の敷地にあった養育院本院は、昭和 20 年の B29 による空襲で、施設の 9 割を焼失しました。

終戦後、すぐに復旧することは難しかったため、軍の施設での事業再開が図られました。最も急を要していたのは病人の治療・入院体制の確保でした。

昭和 21 年、板橋区内にあった元陸軍造兵廠の宿舎を使って養育院本院の病院部門**医務課**が再開されました。翌年、医務課は**養育院附属病院**と改称されます。敷地にはレントゲン室 (昭和 23 年) や手術室 (昭和 25 年) も新たに作られました。

開設直後から在院の患者年間約 600 名のほか院外からの外来患者も受け入れ、多忙を極めました。長期入院の患者も増え、新しい患者を受け入れることも困難でした。また、宿舎の建物は木造で老朽化が激しく、防火上の不安がありました。そこで昭和 25 年に、新病院建設の検討が始まります。

新しい附属病院は、現在の敷地の中に昭和 33 年に開設。同時に大山宿舎は国に返還されました。

昭和 40 年代になると都内の寝たきり老人の増加が問題視され、都で老人専門病院設置 (老人病と老化の基礎研究を行う研究所を併設) の検討が始まりました。その結果、養育院在院者専用病院ではなく一般都民を対象とした病院として、昭和 47 年に新たな**養育院附属病院**と**東京都老人総合研究所**がスタートしました。

養育院附属病院を改称した**東京都老人医療センター**と**東京都老人総合研究所**は、平成 21 年に経営統合し、現在の**東京都健康長寿医療センター**になりました。

2009 年 (平成 21 年) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター発足

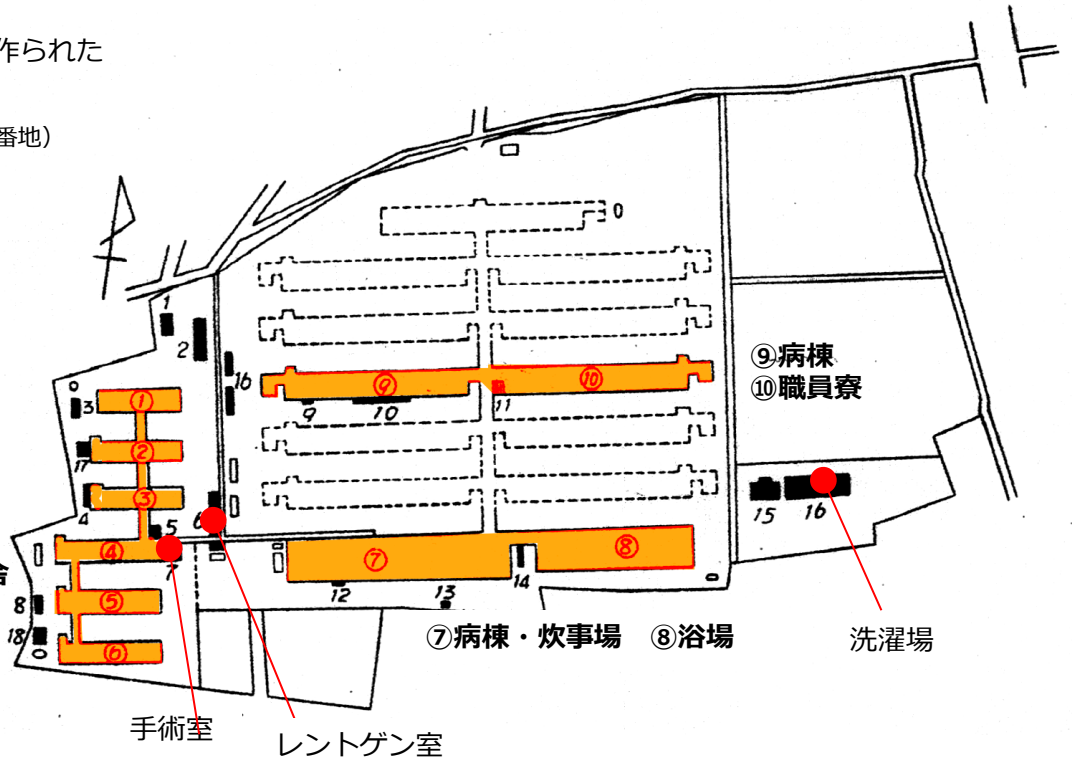
2013 年 (平成 25 年) 新病院に移転



陸軍第一造兵廠大山宿舎に作られた
養育院附属病院

板橋区 4丁目 1289番地 (旧番地)
(養育院八十年史より図改変)

- ① 事務室
- ② 薬局・治療室
- ③ 病棟
- ④ 病棟・寄宿舍
- ⑤⑥ 寄宿舍



google マップより

google マップより
航空写真

現在の旧養育院附属病院跡地
板橋区幸町 45番地 (現在の番地)

